

太宰治より

親愛なる、

魚崎潤へ

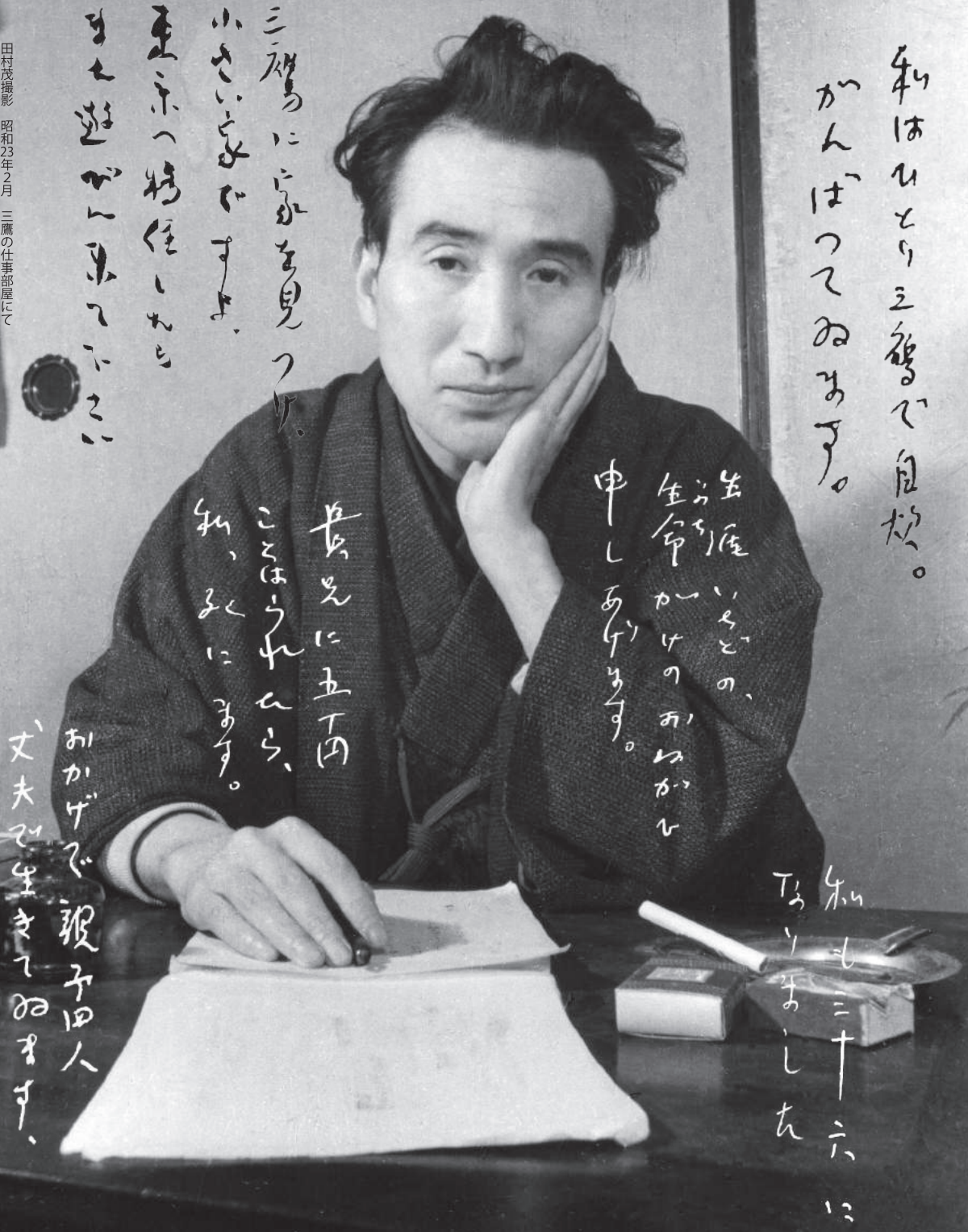
私はひとり三鷹で自炊。

かんばつております。

生涯いんどの、
生命かけのあひかり
申しあげます。

貴兄に五丁の
こぼれやら、
私、みにます。

私も三十一に
下りました



田村茂撮影 昭和23年2月 三鷹の仕事部屋にて

2022 2023
10/29^{SAT} ~ 1/15^{SUN}

休館日 10月31日、11月7、14、21、28日、12月5、12、19、26、29～31日、1月1～4、10、11日

(月曜定休、年末年始休、施設メンテナンスによる臨時休館)

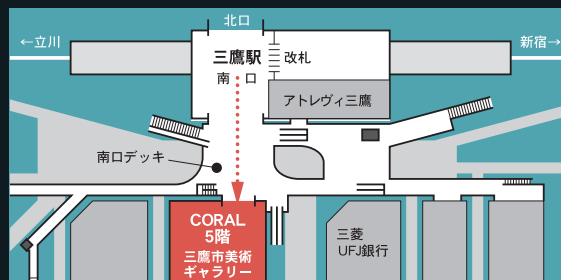
会場 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-35-1 CORAL 5階

☎ 0422-79-0033

太宰治展示室 企画展示室 (三鷹市美術ギャラリー内)

観覧時間 10時～18時 観覧無料

主催 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団、三鷹市



三鷹市美術ギャラリー 太宰治展示室

高等学校までを青森で過ごした太宰治の周辺には、阿部合成をはじめとする画家の友人がいました。昭和5年(1930)に東京帝国大学への入学を機に上京してからは、同郷で義弟の小館善四郎を通じて、画業に勤しむ友人はさらに増えていきました。

なかでも^{ひれさきじゆん}鰭崎潤は、上京後の太宰を支えた一人です。また、太宰に終の棲家となる〈三鷹村下連雀 113〉へ転居するきっかけを与えた人物でもあります。当時、小金井に住み、太宰の自宅に足しげく来訪した鰭崎は、長野に転居してからも、時折三鷹まで太宰を訪ねています。このたび、鰭崎潤の遺族が保管していた太宰治資料を公開します。翻刻されて全集に収録されてはいるものの、原物が未公開となっていた書簡をはじめ、太宰が描いた肖像画《鰭崎潤》や署名本『新ハムレット』は秘蔵資料で、本展が初公開となります。

太宰の死後、その交流について多くを語らなかった鰭崎潤。残された資料は、太宰治没後70余年を経て、二人の交友を伝えてくれます。



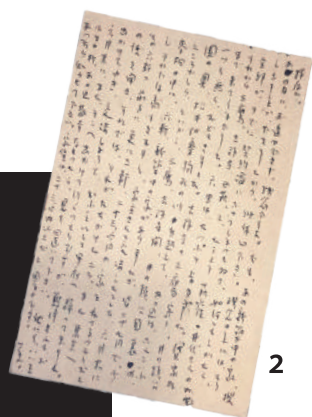
太宰治《鰭崎潤》

昭和14年頃 / 油彩、スケッチ板 / 226×156

雑誌のインタビューで鰭崎自身が存在を明かしていた油絵。太宰が描いた肖像画で、対象を特定できるものは珍しい。また、背景の造作がしっかりと描き込まれたものは他に類をみない。鰭崎のアトリエで制作された。〈初公開〉



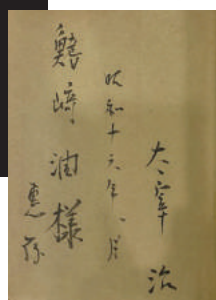
1



2



3



4

1 檀一雄 鰭崎潤宛書簡

昭和11年7月9日

太宰初の創作集『晩年』出版記念祝賀会への招待状。太宰とのつきあいは、鰭崎と文士との交流を広げるものでもあった。

2 太宰治 鰭崎潤宛葉書

昭和14年6月4日

鰭崎は身近に空き家を見つけるたびに、甲府に住む太宰に連絡した。太宰は建築予定の借家を見つけたことを、鰭崎に報告している。この家が終の棲家となる〈三鷹村下連雀 113〉である。

3 鰭崎潤画・太宰治賛《風景》津島家寄託

昭和14年頃 / 油彩、スケッチ板 / 238×330

鰭崎のアトリエで制作。背景を鰭崎が、太宰が賛を寄せた共作。

4 署名本『新ハムレット』見返し

〈三鷹市新収蔵資料〉昭和16年7月 文藝春秋社刊行の翌月に太宰から贈られたもの。鰭崎は翌年長野に転居するが、離れてからも太宰の著作を愛読した。

《鰭崎潤プロフィール》

明治44年(1911)7月8日、長野県埴科郡生れ。帝国美術学校卒。太宰の義弟 小館善四郎を介して太宰と知り合い、昭和10年から交流が始まる。塚本虎二主宰の日曜集会に参加する無教会派で、太宰に「聖書知識」を与えた。太宰の没後、帰京し、美術教諭として勤務。定年退職後は創作活動に専念し、都内で個展を開催するなど生涯画業に勤しんだ。平成元年(1989)11月18日、死去。



太宰治展示室
三鷹の此の小さい家

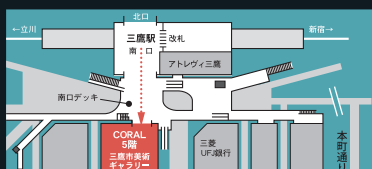
☎0422-79-0033

<http://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/dazaihouse/>

※JR中央線 三鷹駅南口デッキを直進し、CORAL 2階入口からお入りください。

※駐車場は CORAL 地下駐車場 (30分 200円) をご利用ください。

※駐輪場は CORAL 駐車場の入口横のスロープを上がり2階です。



太宰治展示室から徒歩約5分の
太宰治文学サロンにもお立ち寄り
ください。

太宰治文学サロン

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-16-14

☎ 0422-26-9150

●三鷹駅南口より徒歩3分

●駐車場はございません。